

### 教育民生所管

業で、白石駅観光案内所はこれまで2名の職員により交代で案内業務を行っていたが、土曜・日曜及び祝日などは歴史ブームを受けて白石を訪れる観光客が増加しているため、繁忙期には2名体制で業務を行うものである。

〔質疑〕市道樋ノ口線改良工事の経過について伺いたい。  
〔答弁〕平成21年度から平成23年度までの3力年の事業で進めている。

全体の事業費は7千万円である。平成21年度に測量設計及び補償等を行い、平成22年度については国道113号接続部分から滝下会館までの区間200mを改良しようとするもので、事業費として3千万円を見込んでいます。  
☆その他の質問  
○白石市農林作物鳥獣被害防止対策事業補助金の対象となる事業は何か。  
○有害鳥獣捕獲に際しては箱わなの設置方法も検討すべきではないか。

〔質疑〕在宅酸素療法者助成対象者数について伺いたい。

〔答弁〕在宅酸素療法を必要とする呼吸器の(身体障害者手帳)三級以上の方で、酸素濃縮器利用の電気料相当額の一部を助成するもので、月額40円から3千280円で、新規の5名を見込んだ45名で予算要求している。

〔質疑〕地域ふれあいサロン活動支援は新規事業であるが、事業内容及び小規模多機能事業所の現在数はどうなっているのか。

〔答弁〕地域ふれあいサロン活動支援事業については、現在各地域に17カ所あるが規模的には5、6人から20〜30人と地域によって異なる。設立から10年以上経過し、支援者の高齢化や活動内容が固定化しており、新たに地域支援活動を活性化するため、地域ボランティアの募集及びケアマネージャー1人を臨時雇用し、社会福祉協議会に委託し、各地域に出向いて指導を行うものである。

また、小規模多機能事業所の数については、現在1カ所であり、25人の定員で本年1月の通所利用者は16名となっている。

〔質疑〕家庭相談事業の内容及び相談件数について伺いたい。

〔答弁〕家庭相談員を2名委嘱しているが、虐待や母子・児童福祉など、近隣からの通報も含めた相談・指導、宮城県の子童相談所との連携も含めて対応している。平成20年度での発育相談が31件、養育環境が17件、障害程度の判定が31件で表面化した件数で計91件となっている。判定不明もあるが明らかに虐待と思われるものが4件となっており、家庭訪問、保健師も含めた健康推進課との連携をしながら、できるだけ早急に対応している。

〔質疑〕休日保育が休止となった経緯について伺いたい。

〔答弁〕休日保育は平成19年度に開始された事業であり、平成19年度の休日開園日数が54日で延べ利用園児が82人、平成20年度の開園日数が21日

で利用者が25人、平成21年度1月現在までの休日開園対象日が56日に対し、開園したのは10日で、その利用は16人となっている。

このように徐々に減少しているのが実態である。また、職員の勤務体制は利用園児が1人の場合でも、最低2人の保育士を配置する必要があり、利用がない場合でも勤務予定として拘束せざるを得ないのが実情である。

したがって、利用実態を踏まえ、今後はファミリーサポートセンターとの連携を図りつつ、平成22年度については休

止をして様子を見たい。  
〔質疑〕保育体制強化事業の内容について伺いたい。

〔答弁〕発達状況に何らかのつまずきから、集団保育になじめない園児に対しては、マンツーマンの保育対応が求められるケースがあることから、緊急雇用対策による前期、後期それぞれ8名を雇用し、各園の実情に応じた配置を行い、全体的な人員確保をするものである。

〔質疑〕シリウスの生ごみの有効活用・拡大に向けてどのように取り組むか。

〔答弁〕食品リサイクル法に基づいた施設であり、各事業所に再度PRしていきたい。また、モデル地区の拡大については検討しているが、収集費用との兼ね合いもあることから、持ち込みを増やしたい。  
〔質疑〕学力向上パワーアップ支援事業の内容について伺いたい。

〔答弁〕昨年から指定を受けて「早寝・早起き・朝ごはん」運動を基本にして、家庭教育のレベルアップ、学力向上につながるものとして行ってい



おともだちといっしょに